

北 くに 地域づくり・未来づくり ゆめ

Monthly Hokkaido Magazine

月刊  
イズム

ISM

2024年3月1日発行(毎月1回1日発行)  
第35巻第2号通巻374号

国難を憂う 金まみれの政治  
賃上げ値上げの好循環へ

3

月刊  
イズム  
Monthly  
Hokkaido  
Magazine

月刊イズム

3月号

第35巻第2号通巻374号  
2024年3月1日発行(毎月1回1日発行)

発行 (株)情報企画 札幌市中央区北3条西7丁目第一ビル719号  
〒001-271-7051(〒)

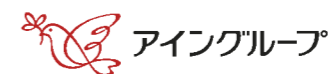
定価570円(本体)  
518円



人とともに薬局は成長する。

患者さまに安心を届け、地域の医療に貢献することが、私たちの仕事。  
薬剤師一人ひとりの成長が、アイングループの成長を支えています。

薬局の未来をはじめよう。



激震！  
能登半島地震  
「明日は我が身」災害に強い道路網構築  
派遣機会はないのか 室蘭港の広域防災フロート  
道医療大学はBP移転でメリットはあるのか 黒田伸



シリーズ表現者たち 勝野好則さん  
(14ページをご覧ください)

2024  
March  
定価570円

雑誌 01723-03



4910017230344  
00518

# 待望の第4弾 発売開始 「大和朝廷 VS 邪馬台国」

日本古代史にはこれまで「おかしい」と考える声は掻き消され、間違っている通説が罷り通っていた。それに風穴を開けたのが「縄文アイヌ研究会」を主宰する澤田健一だ。興味のある向きは古代ヒストリーをとくとと「寛あれ（文中敬称略）。

構成／山田勝芳



大和朝廷 VS 邪馬台国

著者 澤田 健一

発行／白鷺舎 販売／星雲社

定価 本体1500円＋税

## 歴史好きだったが 古代史だけは灯りなき闇

—今回でシリーズ第4段ですが、そもそも日本の古代史に着目した理由は何ですか？

澤田 小さい頃から歴史もが好きで、はじめは漫画でしたが様々な時代の本を読んできました。戦国時代が主だったと思いますが、やがていろいろな時代にも興味が広がり、そして海外の歴史にも興味をもち始めました。中国の歴史も非常に面白かったです。世界中の歴史を扱った20冊シリーズの辞典のような本（「ライフブックス刊」）をねだって買ってもらいましたが、子供にはあまりにも難しすぎた

はどうしてですか？

澤田 これこそが私の歴史へ興味をもつことに至った原点です。北方から入ってきたことを合理的に説明してくれ先生が一人でもいれば、もしかするとそこで納得してそれ以上探求することはなかったかもしれません。ところがその説明をできる先生が一人もいなかったのです。一人ももち続け、それが原点であると同時にその説明がゴールとなっていたのです。

—旧石器、縄文人の日本入域経路について、かなり説明を加えています。その理由

最大の関心は  
古代人は何処から来たか

—旧石器、縄文人の日本入域経路について、かなり説明を加えています。その理由

—旧石器、縄文人の日本入域経路について、かなり説明を加えています。その理由

—旧石器、縄文人の日本入域経路について、かなり説明を加えています。その理由

—旧石器、縄文人の日本入域経路について、かなり説明を加えています。その理由

ことを覚えていきます。それも読んだつもりになって喜んでいただけものです。

ところが、弥生時代以前の日本の歴史となると突然闇の中へ消えてしまうのです。そのため原始時代の日本は「はじめ人間ギャートルズ」のような世界を想像していました。その頃のギャートルズのような先祖様たちはどんな暮らしをしていたのか想像がふくらんでいったのです。

—縄文人とアイヌの関係に着目した理由はなんですか？

澤田 正直なところ縄文人とアイヌは何となくですが別だと思っていました。何を讀んでもアイヌの習俗は北方民族のそれだと書いていました。それでアイヌは北方民族だと

本民族のご先祖様は南方ルート一択で進入してきた完全な単一民族です。また学者たちは弥生人を外来の渡来人だと言いますがそれも間違いであり、私たち現代の日本人はアイヌも沖縄も本州もすべて縄文人の子孫です。弥生時代には北東アジアの混血があり、古墳時代以降は主に朝鮮半島からの混血がありますが、ベイスになっっているのはあくまでも縄文人なのです。それは令和3年に発表された学術論文「パレオゲノミクスで解明された日本人の三重構造」で明らかにされています。

さらには水田稲作は中国人が始めて、朝鮮人（渡来系の弥生人）によって日本に伝えられたというのも完全に誤りです。江南の地で水田稲作を始めたのも、当時は「夷」を自称していた日本民族なのです。弥生時代には朝鮮からの渡来人など入って来ておらず、日本民族みずから水田稲作を持ち帰ったのです。前述のとおり、朝鮮系民族の列島流入は古墳時代以降なのです。

—現在の説とぜんぜん違って見えますが「これが正しい」と言える理由はあるのですか？

澤田 近年、続々と驚くべき発表が続いています。それは核DNA解析によるものです。過去にもミトコンドリアDNAやY染色体といった遺伝子情報で様々な指摘がされてきました。ただし、それらは遺伝情報のほんの一部でしかなかったのです。遺伝情報は4種類の塩基がつらなって作られていますが、ミトコンドリアの塩基数は約1万6500

—現在の説とぜんぜん違って見えますが「これが正しい」と言える理由はあるのですか？

澤田 近年、続々と驚くべき発表が続いています。それは核DNA解析によるものです。過去にもミトコンドリアDNAやY染色体といった遺伝子情報で様々な指摘がされてきました。ただし、それらは遺伝情報のほんの一部でしかなかったのです。遺伝情報は4種類の塩基がつらなって作られていますが、ミトコンドリアの塩基数は約1万6500

—現在の説とぜんぜん違って見えますが「これが正しい」と言える理由はあるのですか？

思っていました。ただ、沖縄はじめ南方にアイヌ語地名があることは、とても不思議だとは思っていました。

それよりも最初に疑問に思ったのは日本民族全体の列島への進入ルートについてです。小学生の頃、初めて日本列島に渡ってきたのはシベリアから北海道へ歩いてきたと教えられました。それがとても不思議だったのです。テレビに出てくるギャートルズは簡単な毛皮を着て槍を一本もって歩きました。そんな恰好でシベリアの冬など越せないのでは

ないか、そんな単純な疑問です。先生に聞いても十分な説明をしてもらえませんでした。小学校の先生は専門家ではないので仕方ないことです。

しかし成長するに伴って少しずつ専門的な本も読み始めたのですが、やはり日本民族はどこからやって来たのかを書かれる先生たちは異口同音にシベリアを経由して北方から入ってきたと断言していま

こうしたこと、日本民族のご先祖様の辿ってきたルートから分かるのであり、そこには縄文土器や日本固有の織物など日本人の遺物が残されています。日本列島までどのようなルートで辿り着き、どのように大陸に進出していったのか、そのルートを今回の書籍で具体的に書いてあります。是非読んで頂きたいと思えます。

遺伝子解析が飛躍的に進歩  
アイヌは縄文人遺伝子7割

—現在の説とぜんぜん違って見えますが「これが正しい」と言える理由はあるのですか？

澤田 近年、続々と驚くべき発表が続いています。それは核DNA解析によるものです。過去にもミトコンドリアDNAやY染色体といった遺伝子情報で様々な指摘がされてきました。ただし、それらは遺伝情報のほんの一部でしかなかったのです。遺伝情報は4種類の塩基がつらなって作られていますが、ミトコンドリアの塩基数は約1万6500

—現在の説とぜんぜん違って見えますが「これが正しい」と言える理由はあるのですか？

澤田 近年、続々と驚くべき発表が続いています。それは核DNA解析によるものです。過去にもミトコンドリアDNAやY染色体といった遺伝子情報で様々な指摘がされてきました。ただし、それらは遺伝情報のほんの一部でしかなかったのです。遺伝情報は4種類の塩基がつらなって作られていますが、ミトコンドリアの塩基数は約1万6500

—現在の説とぜんぜん違って見えますが「これが正しい」と言える理由はあるのですか？

澤田 近年、続々と驚くべき発表が続いています。それは核DNA解析によるものです。過去にもミトコンドリアDNAやY染色体といった遺伝子情報で様々な指摘がされてきました。ただし、それらは遺伝情報のほんの一部でしかなかったのです。遺伝情報は4種類の塩基がつらなって作られていますが、ミトコンドリアの塩基数は約1万6500



澤田 健一

1964年札幌生まれ。同志社大学工学部卒業。既存の枠にとらわれず、歴史・考古学を独自に学ぶ。思いつままま読み・調べ・歩き・聞き・見ることを旨とし、文献やデータを忠実に読み解き歴史の事実に向けることを目指している。縄文アイヌ研究会主宰。

0個、Y染色体は約5100万個であるのに対して、核DNAはおおよそ32億個であり情報量が異次元的に多いのです。これが人間の完全な設計図であり、この人間の設計図が完全に読めるようになったので

それによって重要な事実が判明してきました。まず令和元年に国立科学博物館、国立遺伝学研究所、東京大学、金沢大学など7機関合同で発表された論文「Late Jomon male and female genome sequences from the Fundomari site in Hokkaido, Japan」によると、現代のアイヌは縄文人の遺伝子を約7割も受け継いでいる

と言うのです。この研究発表によって大きく流れが変わりました。

そして令和2年には、東京大学、東京大学大学院、金沢大学が合同で発表した「縄文人ゲノム解析から見えてきた東ユーラシアの人類史」ではさらに具体的な指摘がありました。それによると現在東ユーラシアに住んでいる全ての人々が南ルートであると言っています。核DNAが2010年に解析されるようになってから現在まで膨大な数の解析が行なわれているそうです。そして東ユーラシアの人々は全て南ルートだと結論が出されたのです。「多くは」とか「大



「賢者は歴史に学ぶ。」  
縄文時代から連続と続く日本の歴史。一般に隠れる事実に含まれる不可解な謎は、アイヌの視点を通すことにより解き明かされた。現在の歴史観に一石を投じる渾身の書、傑作。

### シリーズ第1弾 「縄文人の日本史」

発行/白鷺舎  
販売/星雲社  
定価 1300円+税



「理解の外にこそ、真実がある。」  
世界各地の古代文明を調査すると、そこには偶然では片づけられない「縄文」のルーツが見えてくる。

### シリーズ第3弾

発行/同  
販売/同  
定価 1500円+税

### シリーズ第2弾 「夷の古代史」

発行/同  
販売/同  
定価 1300円+税

きたのです。

やがて東の先端で陸路が途絶えたために暫くはそこに

ました。そこは現在のカリマントンからインドネシアあたりです。当時はその島々は陸続きになっていたのです。これまでの経路上に縄文遺跡から出土するものと同じものや、鳥居や注連縄などが遺されているのです。祖先様は、そこで約5万年前に刃部磨製石斧

を手にしました。その鋭利な石斧で木を切り倒し、その大木で丸木舟を造るようになったのです。4万年以上前のインドネシアの遺跡からは外洋を高速で遊泳する魚の骨が大量に出土しますが、舟の外

部分は」とかではないのです。「全ての」の人々が南ルートであり、ヒマラヤ山脈の南側を横断してきたことが判明したのです。つまり、もともとシベリアの北方民族などいなかっただのです。

この「縄文とアイヌ」シリーズでずっと書いてきたのですが、私たちはこれまで、大陸がオリジナルで日本はコピーだと信じ込まされてきましたが、それは逆なのです。本当は日本がオリジナルで大陸がコピーなのです。刃部磨製石斧も細石器も土器も漆技術も日本がずっと先行していて、それが大陸に広がっていったのです。

### 以前の北方侵入説は否定へ 古代人は南方から来た

前出の論文では、アイヌは日本列島の住人として最も古い系統であり、遺伝子の系統樹ではアイヌと縄文人は同じクラスター(枝)に位置するそうです。つまり、アイヌは縄文人の子孫で間違いはないということです。

が生まれていきます。やがて個別の地域集団となっていく、弥生時代に入ると列島内にくつものクニが誕生します。その中心となっていたのが畿内の大和朝廷と北部九州の邪馬台(やまと)国です。そして弥生時代後半を通して大和朝廷が、数代の天皇にわたって国内の再統一を行なっていくのです。邪馬台国側の勢力は徐々に削ぎ落とされていき、

神功皇后軍と邪馬台国軍の最終決戦は364年になります。何故それが364年だと分かるのかちゃんと理由があるのです。魏志倭人伝だけを見ていても分かりませんが、日本書紀と新羅本紀を合わせて読むとほつきり分かるのです。それを「大和朝廷 vs 邪馬台国」を読んで確かめてください。また、従来から魏志倭人伝の「水行十日、陸行一月」の読み方が問題となってきました。実はこの記述を実際の距離に置き換える試みには全く意味がないのです。魏の郡使は、非常に過大に誇張された日数を倭人から一方的に伝えられた

また、縄文人は東ユーラシア人の「根」に位置するほど非常に古く、東ユーラシア人の創始集団だったのです。大陸が親で、私たちが子なのではなく、縄文人が祖先で、大陸人(東ユーラシア人)が子孫なのです。日本列島から大陸に出て行ってそのまま大陸に残った人々が東ユーラシア人になっていったのです。その過程で、日本民族が使っていた刃部磨製石斧や細石器、土器、漆製品が大陸に伝わったのです。そのことは実は中国の記録にもちゃんと書いています。「礼記」王制篇には「東方のことを夷という。夷とは根本の意味である」と書かれています。つまり東方の夷(日本民族が根本なのです。日本は中国や朝鮮を手本にしたと思っ込んでいたのは間違いなのです。ところで、日本列島では3万8000年前から刃部磨製石斧という磨製石器を使っていたことが、ヨーロッパ人が磨製石器を使い始めるのはせいぜい1万年前です。日本の技術はヨーロッパより2万8

000年も先行しているのです。大昔の日本の技術や文化は遅れていたと思わされていたのは完全なミスリードなのです。

そしてようやく学者たちも間違いを認め始めたようです。昨年(令和5年)12月6日にNHKBSで放映されたフロンティア「日本人とは何者なのか」をご覧になられた方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。衝撃的な内容でした。番組には日本の第一線の学者が何人も登場していましたが、ようやく「日本民族北方進入論」が間違っていたことを認めたようなのです。ここでは南方説だけが示されています。これから今までの常識が大きく変わっていくことでしょう。

本書は10万年以上前の南アフリカから始まります。そこから日本列島に上陸するまでの道のりを示しています。その人々は魚を食べる人々なのでユーラシア大陸の海沿いに、つまりヒマラヤ山脈の南のほうを通って東へ東へと歩いて

だけなのです。記録を残した魏の郡使も実際の里数は得られなかったと自分ではつきりと書いています。それは何故かという理由も含めて本書を読んで確かめてください。さらには魏志倭人伝には倭儒国(こびとの国)のことが記されているのですが、その位置の説明はフロレス島の位置を示しています。そして驚くことに倭儒国の人々の身長

の説明は、実際のフロレス原人の身長とピタリ一致しているのです。祖先様たちは南方にいた頃に、大人になっても身長が1mしかないフロレス原人に出会っていたのです。そのあまりにも小さい人たちを見て衝撃を受けたのでしよう。その衝撃が邪馬台国の倭儒国伝承とアイヌのコロナックル伝説になっていったのです。

この他にも面白い話をいっぱい書きましたので、ぜひ読んでみてください。間もなく歴史は変わります。 — 熱弁、ありがとうございます。

## 自費出版のお手伝いをします。



自叙伝、小説、詩集・絵文集などの文学本、写真集・絵文集の芸術本など1冊の本にする計画をお持ちではありませんか？

私たちが丁寧に、総力を挙げてお望みどおりの1冊にします。

お問合わせは 株式会社情報企画 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目緑苑ビル913  
TEL 011-271-7651 FAX 011-271-7652